

1 保育所待機児童数・空待ち児童数の状況

調査時点	定員総数	全申込児童数	保育所等利用児童数	(A)のうち保育所等を利用できなかった児童数	(C)のうち空待ち児童数	(C)のうち企業型利用	(C)のうち待機児童数
		(A)	(B)	(C) = (A) - (B)	(D)	(E)	(F)
H27.4.1	11,024	11,223	11,059	164	164	0	0
H28.4.1	11,141	11,351	11,172	179	115	0	64
H29.4.1	11,831	11,904	11,729	175	147	0	28
H30.4.1	12,100	12,105	11,964	141	81	4	56(43)
H31.4.1	12,361	12,292	12,134	158	104	11	43(31)

(備考)

- ① (B)の値は、調査時点において、保育所等を利用している児童の数
- ② (C)の値は、全申込児童数(A)から保育所等利用児童数(B)を差し引いた児童の数
- ③ (D)の値は、他に利用可能な保育所等があるにも関わらず、特定の保育所等を希望し、保護者の私的な理由により待機している、いわゆる「空待ち児童」の数
- ④ (E)の値は、企業主導型保育事業を利用している児童の数
- ⑤ (F)の値は、待ち児童には当たらず、空きがないために待機となった児童の数

平成29年度以前は市内を6区域に分けて待機児童数を算出。  
平成30年以降は、教育・保育提供区域(14区域)で算出。  
※H30,H31の()内の数値は6区域で算出した場合の待機児童数。

2 教育・保育提供区域毎の状況

なし	8区域	大宮、大淀・大塚、赤江、青島、生目、佐土原、田野、清武
1~5人	3区域	木花、北、高岡
6~10人	2区域	中央、住吉
11人以上	1区域	榎

【今回の特徴】

- ①待機児童の約半数は「1歳児」
- ②待機児童数は「榎」が増加、「高岡」が新たに発生、その他の地区は減少傾向であるものの「中央」「住吉」は継続して多い。

